

経営比較分析表（令和2年度決算）

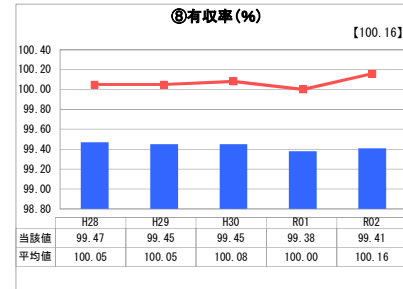
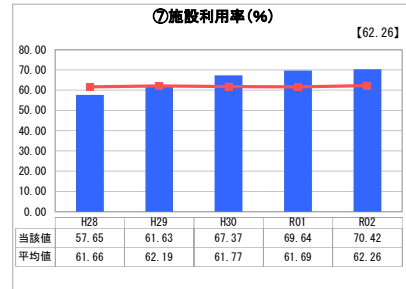
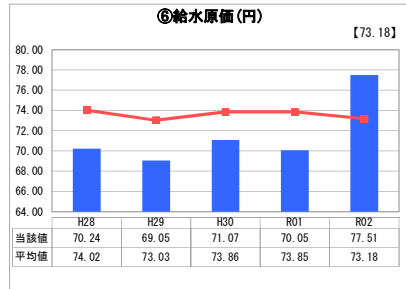
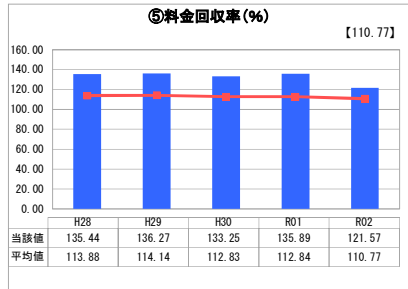
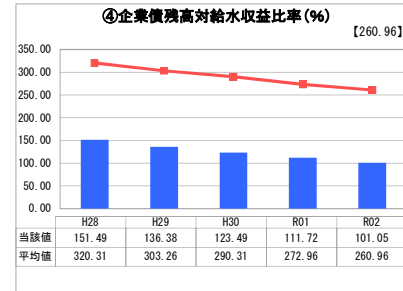
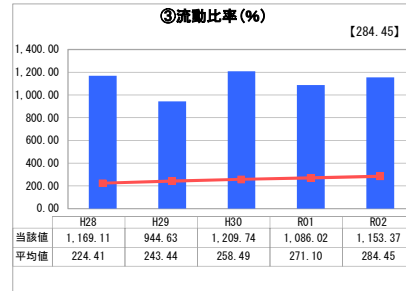
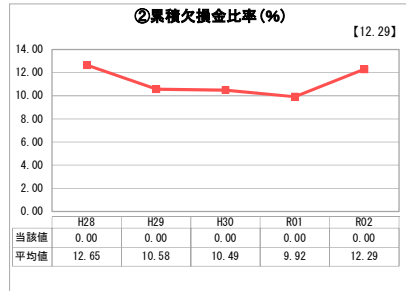
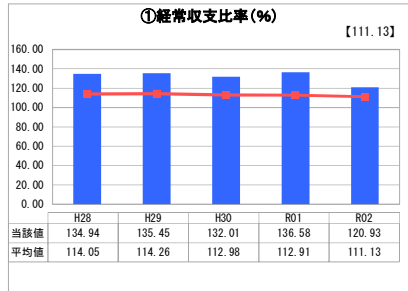
岐阜県

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	用水供給事業	B	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	85.35	87.16	0	

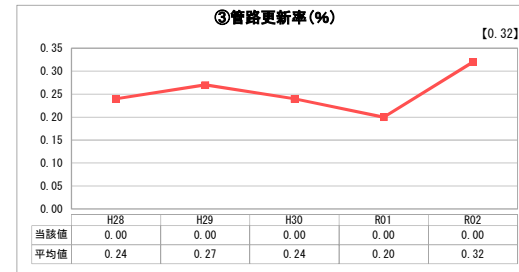
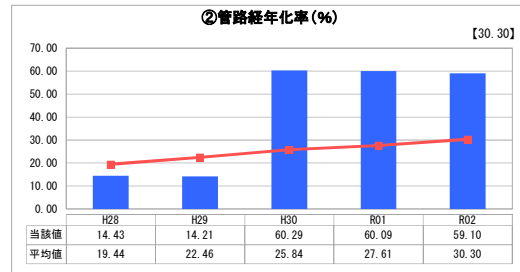
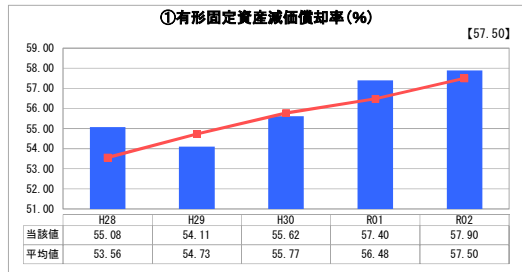
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
2,016,868	10,621.29	189.89
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
460,942	454.04	1,015.20

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- 経常収支比率
単年度収支は黒字を確保しています。また、施設更新等に充てる資金も確保できています。
- 流動比率
短期的な債務に対する支払能力に問題は無い状態です。一般的に必要なとされる100%を上回っています。
- 企業債残高対給水収益比率
平均値より低い値になっています。従来から設備投資に係る利子負担の軽減のため、自己資金を活用し、企業債を抑制する方針としていますが、今後も企業債の抑制に努めていきます。
- 料金回収率
給水に係る費用は全額給水収益で賄えています。
- 施設原価
平均値より高い値になっていますが、施設の老朽化に伴い、計画的に修繕を進めていることによるものです。引き続き、維持管理費の削減等に努めていきます。
- 施設利用率
平均値より高い値になっています。施設のダウンサイジングを計画的に進めたことによるものです。今後も施設の更新に際しては、将来の水需要に見合った適切な施設能力に見直しを図りながら、整備を進めていきます。
- 有収率
ほぼ100%であり、特に問題はありませぬ。

2. 老朽化の状況について

- 有形固定資産減価償却率
平均値とほぼ同率です。給水開始から40年以上経過しているため、施設の老朽化が進み、比率は増加傾向です。アセットマネジメントに基づき、計画的に設備更新を進めていきます。
- 管路経年率
平均値より高い値になっています。引き続き、アセットマネジメントに基づき、管路の優先度を考慮しながら更新を行っていきます。
- 管路更新率
法定耐用年数は経過していますが、施設の状況を考慮すると、更なる使用が可能な状態です。劣化状況を判断したうえで、優先度の高いところから既設管路の複線化を進め、計画的な管路更新を行っていきます。

全体総括

当水道事業は、現状では経営の健全性を確保していますが、今後は、人口減少による給水収益の減少が見込まれます。そのため、現在、既存施設のダウンサイジングや、アセットマネジメントを推進し、収益の減少に対応しているところです。

また、基盤強化、合理化対策として、受水市町と共同での施設整備や、応急給水体制の整備など、広域連携を実施しています。

今後も、経営戦略に基づき、引き続き、経営の健全性を確保するとともに、施設更新や大規模災害対策等のための設備投資を計画的に実施し、水道水の安定供給を行っていきます。